

2.5GHz 帯を使用する広帯域移動無線アクセスシステムの技術的条件」
についての情報通信審議会への諮問
ーワイヤレスブロードバンドの普及促進に向けてー
(平成18年2月27日総務省報道発表)

総務省は、情報通信審議会（会長：庄山 悦彦 株式会社日立製作所 代表執行役執行役社長）に、「2.5GHz 帯を使用する広帯域移動無線アクセスシステムの技術的条件」について諮問しました。

1 諮問の背景

我が国においては、高速インターネットアクセスに対する利用者ニーズの高まりから、DSLや光ファイバ等、大容量のデータ伝送が可能なブロードバンドサービスが順調に普及しつつあります。

一方、無線システムについては、第3世代携帯電話等によって音声のみならずデータ通信サービスが提供されていますが、さらに都市部を中心として、第3世代携帯電話のデータ伝送速度を上回る高度な移動通信サービスを楽しみたいとの要望が高まっています。また、条件不利地域においても、無線を活用することにより、有線と同等のブロードバンドサービスを楽しみたいという要望が高まっています。

さらに国際標準化機関においては、2.5GHz 帯等の周波数帯を想定した広帯域移動無線アクセスシステムについて、精力的に標準化活動が進められているところです。

以上のように、現在、国内外において、広帯域移動無線アクセスシステムに対するニーズが高まってきていることを受け、総務省では、平成16年11月より「ワイヤレスブロードバンド推進研究会」を開催し、ワイヤレスブロードバンドの具体的システム、周波数帯について検討が行われ、2.5GHz 帯を広帯域移動無線アクセスシステムへの有力な割当ての候補とする提案がなされたところです。

以上を踏まえ、2.5GHz 帯を使用する広帯域移動無線アクセスシステムの技術的条件について情報通信審議会に諮問し、答申を求めるものです。

2 諮問内容

2.5GHz 帯を使用する広帯域移動無線アクセスシステムの技術的条件（下記の図参照）

3 検討体制

情報通信技術分科会における審議に資するため、情報通信技術分科会の下に新たに「広帯域移動無線アクセスシステム委員会」（主査：安藤 真 東京工業大学大学院理工学研究科教授）が設置されました。

4 今後の予定

平成18年11月頃に答申をいただき、関係規定の整備を行う予定です。

詳細については<http://www.soumu.go.jp/s-news/2006/060227_2.html>を参照してください。

1 広帯域移動無線アクセスシステムの利用シーン

- ◆ 無線によるインターネットへの常時接続
- ◆ 自宅、職場から持ち出したパソコンをどこでもブロードバンド環境で利用可能
- ◆ 都市部を中心に広域をカバー
- ◆ 中速程度の移動が可能
- ◆ 条件不利地域における有線回線の代替として安価に提供等



2 検討対象となる方式の要求条件

- ◆ ワイヤレスブロードバンド推進研究会最終報告書が提示する以下の要求条件が基本
 - ・ 3G及び3.5Gを上回る伝送速度（20～30Mbps程度以上）
 - ・ 一定レベル以上の上り伝送速度（10Mbps程度以上）
 - ・ 3G及び3.5Gを上回る高い周波数利用効率
 - ・ 周波数資源の有効利用の観点からTDD方式を検討等

3 主な検討事項

- ◆ 周波数有効利用のための技術的条件
 - ・ 広帯域移動無線アクセスシステムと隣接システムとの所要ガードバンド幅
 - ・ 広帯域移動無線アクセスシステム間の所要ガードバンド幅
 - ・ 技術方式（帯域外輻射等）等
- ◆ 事業者間の周波数共用技術
 - ・ 複数事業者による無線インフラの共用技術等



ブロードバンドサービス等の契約数（平成17年12月末）
（平成18年3月3日総務省報道発表）

総務省では、電気通信事業報告規則（昭和63年郵政省令第46号）の規定に基づき、電気通信事業者から報告のあった平成17年12月末時点の契約数等について取りまとめましたので公表します。

今回の取りまとめ結果における主な傾向は次のとおりです。

○ ブロードバンド契約数は2,237万契約。

平成17年12月末におけるブロードバンドサービス契約数は、2,237万契約となりました。平成17年9月末における合計数は2,143万契約でしたので、四半期の間に94万契約増加しました。

各サービスの内訳

| | ブロードバンド 合計 | FTTH | DSL | CATV | FWA |
|--------------------|---------------|-----------|------------|-----------|--------|
| 平成17年12月末 | 22,365,148 | 4,637,280 | 14,480,958 | 3,226,680 | 20,230 |
| 平成17年9月末 | 21,427,707 | 3,978,529 | 14,305,521 | 3,121,680 | 21,977 |
| 純増数 (平成17年7～9月) | 937,441 | 658,751 | 175,437 | 105,000 | ▲1,747 |

※ブロードバンド契約数：FTTHアクセスサービス、DSLアクセスサービス、CATVアクセスサービス、FWAアクセスサービスの各契約数の合計

○ FTTHの契約数が464万契約。純増数は5期連続で増加。

平成17年12月末における契約数は、FTTHが464万となり、400万を突破しました。また、本年度第3四半期（10月～12月）の純増数は過去最高の66万契約となっています。FTTHの純増数は、平成16年7月～9月期から5期連続で増加を続けています。

詳細については<http://www.soumu.go.jp/s-news/2006/060303_8.html>を参照してください。

ARIBの動き

第116回業務委員会が開催される

第116回業務委員会が開催されましたので、その概要をお知らせします。

1 日時 平成18年3月8日(水) 午後2時から3時30分まで

2 場所 当会第2会議室

3 議事概要

事務局から、次の事項について説明、報告がありました。

- (1) 平成18年度収支予算書の補正について審議するための第37回理事会
- (2) 平成18年度税制改正要望の結果の概要
- (3) アナログ周波数変更対策業務
- (4) 最近の当会の活動状況

欧州電気通信
の動き

DVB-H規格によるモバイル・テレビ実験、良好な結果を示す

【SFRコミュニケ,2006/02/27】

SFR(携帯電話事業者)は、2月27日、カナル・プリュス(ペイテレビ)、タワーキャスト(放送技術事業者)、フィンランドのノキア(通信機器)と共に行ったDVB-H規格によるモバイル・テレビ(放送波を利用した携帯端末への放送サービス)の実験は良好で、実験参加者の73%が実験に満足と回答している、とした結果を発表した。

CSA(仏視聴覚最高評議会)が2005年9月に許可した実験には、500名が参加。参加者は、日平均20分テレビを視聴しており、50%が屋内利用で、14%が交通機関において視聴したとしている(なお、地下鉄は非カバーエリア)。

最も利用が多かった時間帯は、9~10時、13~14時、20~22時。また、参加者の18%が週1回視聴したとしているのに対し、57%が週に数回、25%が1日に1回視聴したとしている。最も人気があった番組は、ニュース、音楽、バラエティ・ショー、スポーツ、ドキュメンタリーとなっており、カナル・プリュス加入者の場合、映画も視聴されている。

実験の結果、参加者の73%が満足であると回答し、68%が商業サービス開始の暁には、加入してもよいとしている。また、80%以上が提供されたコンテンツに満足であるとしている。

SFRでは、モバイル・テレビへのニーズが確認されたと見ており、モバイル・テレビ開始のための規制、経済、産業上の条件が、できるだけ早く満たされることを望んでいる。

編集後記

ARIBの事務所内には、四季の変化を感じさせるものは何もありますが、外の景色は、この時期になると次第に春を感じさせるものが増えてきました。通勤電車から見る風景には、あちこちに白やピンクの花を咲かした木々の姿が目につくようになってきましたし、枯木と思われるような木々でも良く見ると

ちゃんと新芽が吹き出しています。先日は、既に早咲きの桜が満開であるとか、モンシロチョウが飛んでいたという話題をテレビでやっていました。まさに春近しというか、もう春なのかも知れません。

一方、通勤する人々の服装を見るとまだ真冬のままだ人が多いようです。マフラーを着用している人はいくぶん少なくなって来たようには思いますが、自然の動植物に比べると、人間は季節に対する感受性が多少劣っているように思えます。

かくいう私は、まだマフラーに厚手の防寒コートという真冬の服装で通勤しています。こういうスタイルの人はまだまだたくさんおり今のところ安心しておりますが、はっと気が付くと周りにはコートを着ている人は殆どいなくなり、あわてて変えるというのが例年の私のパターンです。みなさんはいかがですか？

ともあれ、もうすぐ春です。花見もよし、花より団子もよし、大いに春を満喫しましょう。 (N.K)